

1 親切運動の取組の紹介

児童活動「あいさつ運動」「なかよし集会」「やさしさの木」

・ 主な取組について

本校では運営委員会を中心に「あいさつのあふれる学校にしよう」とあいさつ運動を行っている。お昼の校内放送であいさつ名人を紹介することで、気持ちのよい挨拶をしたいという児童の思いが高まっている。また、全校児童が登下校時や校外学習の行き帰りに職員室に立ち寄り、「おはようございます」「さようなら」「行ってきます」と気軽に声をかけ、教師と挨拶を交わすことが習慣化している。朝だけでなく校内ですれ違うときにも「こんにちは」とあいさつをする児童が増えており、挨拶の輪が広がっている。

「全校の仲を深めたい」と縦割り班で簡単なゲームをするなかよし集会を今年度から開始した。短い時間だが、他学年との交流を楽しむ姿が見られ、話しやすい雰囲気ができている。

「全校にやさしさあふれる行動をふやしたい」との思いから、やさしい行動を紹介する「やさしさの木」の活動を行っている。友達のやさしい行動から「自分もそうになりたい」という思いをもつ児童が増えつつある。

・ 成果や課題について

地域からも児童の挨拶をほめてくださる声を耳にする機会が多くなった。活動が形骸化することなく、挨拶の意味を感じながら続けるよう働きかけたい。他学年と交流する機会を定期的に設ける必要があり、運営する側の負担はあるが、いろいろな場面で交流を深めていきたい。

「こんにちは訪問」

・ 主な取組について

5年生の総合的な学習の時間は福祉をテーマとしている。その一環として一人暮らしのお年寄りを訪問する「こんにちは訪問」を平成12年度から続けている。

手作りのプレゼントを作り、児童の得意なけん玉等を披露し、お年寄りと触れ合ってきた。

・ 成果や課題について

ささやかなふれあいだが、お年寄りのみなさんが楽しみにしている活動となっている。児童もお年寄りも年々減少傾向にあり、継続的な関わりがつかれるよう工夫したい。年に1度の関わりだが、学校行事に招待するなど、関わる機会を増やしていきたい。



2 親切運動に取り組んで

・ 取組の成果

他者への思いやりを育むことは、自分の心を豊かに穏やかにすることにつながる。これらの活動を通して、児童が穏やかに落ち着いて生活できる学校となっている。

・ 課題と今後に向けて

これらの活動のよさや成果を広め、さらに活動の輪を広げる働きかけが必要である。他者への思いやりを育むためには時間をかけて、日ごろから指導や関わりが必要なので、全校放送や集会等の機会を増やし、温かな心根を育てていきたい。